

研究テーマ ● 「IAT」による潜在的な態度・性格の測定と行動の予測

教育学部・学校教育・教育心理学

講師 稲垣 勉

<http://pyfpy037.wixsite.com/tsut0muf>

研究の背景および目的

自分自身の性格や態度などを最もよく知っているのは、やっぱり「自分自身」だと思いますか？近年の社会心理学は、こうした常識を覆す知見を提供しています。

「**自分でも気づいていない**」態度や性格が、私たちの行動に影響することが分かってきました。私の研究室では、潜在連合テスト (IAT) という自己報告によらない方法を用いて、人の「潜在的な」態度や性格を測定する研究を進めています。IATを用いた実際の行動予測も重要なテーマです。

■ おもな研究内容

\* 潜在的測定法による態度・性格の測定と行動の予測 \*

- ・ 「～が好きだ」「～は怖い」といった人や物に対する「**態度**」
- ・ 「私はシャイだ」「私は自分に自信がある」といった「**性格特性**」  
→これらの測定には、従来、質問紙(アンケート)などの自己報告が用いられる。

【自己報告による測定の課題】

① 回答を変えることもできる(回答の偽り)

- ・ 入社面接で「チーム活動は得意ですか？」と質問されると、本当は苦手だと思っても、自分をよく見せようと「はい」と答えることがある。

② 自分でも気づいていない側面は分からない(内省の限界)

- ・ 「自分は○○な性格だ」と思っている、他者からは違って見えることもある。

【潜在連合テスト (IAT) の特徴】 IAT=Implicit Association Test

＜パソコンを用いて数分程度の課題を行い、態度や性格の一部を測定＞

- ・ 何を測定しているか分かりにくい課題→**回答を歪めることは困難**。
- ・ 自身でも予想しない結果が出ることもある
- ・ 潜在的に測定した性格や行動は実際の行動と関連する。

- 例1: 潜在的に「**シャイ**」な人→人前で赤面しやすかったり、気が散ってしまったりする。
- 例2: 潜在的に「**黒人に否定的な態度**を持っている」人→黒人と話す際に目を背けたり、笑顔が減ったりする。

💡 質問紙(自己報告)で測定した性格や態度は、行動と関連がないことが多い。

期待される効果・応用分野

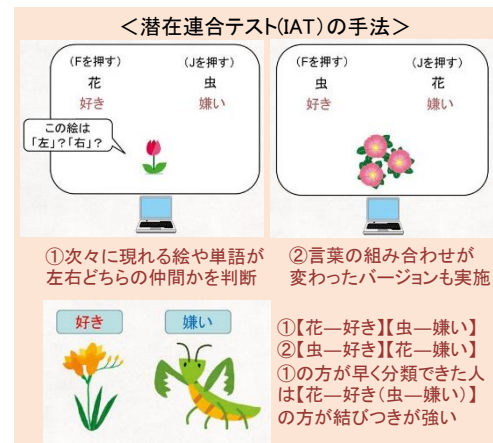
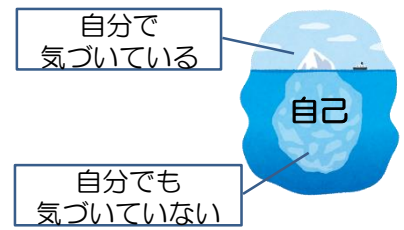
潜在的測定法は「嘘発見器」ではありません。自分も気づかない側面を知れば自己理解が深まると共に、「一側面だけで物事や自他を判断しない」という他者理解のための視点を養うことにもつながります。「**未知の自分を知る**」「**多面的な視点を得る**」など、企業や学校での教育や就職活動への応用が期待できます。行動との関連の研究を進めると「それをどう変えるか」というプログラムの開発にも発展すると考えています。いじめ・自殺などの発見や予防、治療の効果測定への応用の可能性もあります。

■ 共同研究・特許などアピールポイント

- 潜在的測定法は紙筆版もあります。パソコンのない環境でも使用可能です。
- 性格、態度、信念など多領域に応用できます。
- **自尊心(自尊感情)**についても多くの研究成果があり、ホームページでも公開しています。

🗨️ コーディネーターから一言

潜在連合テスト(IAT)の研究者。潜在的測度の可能性を探り、行動予測等への応用を検討しています。調査・研究に協力いただける機関等を求めています。心理全般に関するセミナー等へも対応できます。HPもご参照ください。



研究分野	社会心理学, 教育心理学, パーソナリティ心理学
キーワード	潜在的測定法, 潜在連合テスト, 態度, 性格特性, シャイネス, 自尊心(自尊感情)